

神戸市会 会議録

2007.12.04 平成 19 年都市活力の創造に関する特別委員会 本文（一部抜粋）

21： 委員（北山順一）

委員（北山順一） 企業誘致ということについて、大変頑張ってもらっておりますことについては、私たちは認めておるんですが、この企業誘致をやるときに、いろんな資料を見ておりましたら、ほとんどの他都市は補助金だとか、助成金だとか、いろんなものを大変な金額を積み上げてやっております。そういう数字を見ておるときに、神戸市と堺市と、それから川崎市ですか、川崎市と、この3市だけがそういう補助金等は積んでいないということになっております。

それから、先ほどから出ておりますエンタープライズゾーンにつきましても、市長をトップにと、こう言っておりますけれども、市長や知事をトップにしていない市や県はほかにもないと、全部そういうふうにやっておるんだということを私たちは理解をしておるんですし、企業誘致ということについては、これは2004年ですか、三重県の亀山市でシャープを誘致するときに、亀山市と三重県が大変な金額を誘致のために助成するというで提案をしましたときに、議会は、一民間企業に何でそこまでせないかんのだというようなこともありましたけれども、当時の亀山あるいは三重県は、これは将来の三重県亀山市にとって大事な誘致なんだと、企業なんだということで押し切ってあれをやったんですね。135億円か150億円ぐらいの誘致をしてやりました。それが今、大成功しておるのも事実です。亀山モデルと言われておまして、今、あちらこちらでそういう誘致をどんどんやろうとしておりますし、全国の都道府県でもそういう制度を持っていない、助成金、補助金の制度を持っていないのが3都県ですね、東京も入ってますから、3都県。それから政令市では先ほど申し上げた川崎、堺、神戸と、この3つだけが持っていません。神戸はそのインセンティブとしては固定資産税の減免であるとか、あるいは事業所税の減免、2分の1の3年間と、こういう制度を持っております言うけれども、これで本当に対抗できるのかなと、こういうふうに思っております。

それから、もう1つは、大阪の堺市がこのたび大変大規模なシャープの工場を誘致することができた。ということで、私は、あの大阪の堺は、大変なこれからは都市として成長していくんではないかなと、こう思っておりますが、今、神戸市が誘致をしつつある企業、大企業というのはあるんでしょうか。そういう大きなものはあるのかないのか、やりつつあるのかね、そういうふうな点、いわゆる大企業と言われるようなものを神戸市が誘致しつつある、今、発表できるのであれば発表してほしいと、こういうふうに、まず1つ、思っております。

それから、きょうはみなと総局長もおいででございますから、港についてもお伺いをいたしたいと思いますが、先日、ハーバーランドでメリケンパークですかね、ピエンナーレやったんわね。あのピエンナーレも当初の予定どおりというよりも、予定をはるかにオーバーするだけのお客さんを集めました。14万人を超えるようなお客さんを集めて大成功しました。これは関係者は大変な努力をしたと、こういうふうに思っております。それで、大成功をしたんですけれども、14万オーバーですね。14万超ですね。だけでも神戸に日本丸とかいろんな帆船なんかが入ってくると、3万人、4万人という人たちがそ

れを見たり、あるいはその船に乗り込んだりするために、それくらいの人を集めてくるんですね。だから帆船とか、観光のための船という、クルーズと言った方がいいんですかね、これは大変だね、今の日本ではブームを呼ぶ要素だと、こういうふうには思っております。

そこで、今、神戸で随分前からやって努力してもらっているのが、コンチェルトという船があります。あの船でディナーをとれば、明石海峡大橋をぐるっと回って帰ってくるだけです。もっと遠いところまで行くかどうか知りませんが、たしか明石海峡大橋をめぐる帰ってくると。こういうことではなくて、私は神戸を基地として瀬戸内海クルーズというやつね、これは日帰りじゃなくて、3泊も4泊もするような瀬戸内海クルーズ、こういうものを私は企画するべきだと、こう思っております。そういうことを企画している企業があるのかなのか。あるいは、なければですよ、皆さんの持っているエンタープライズゾーンの計画 条例の中ですよ、そういうこのクルーズがいかに経済的な効果があるんだということを皆さんの方で企画・提案をしていただいて、こういう企業に参加しませんかというふうに、全国のそういう関連の企業に案内をして誘致をすると、これくらいの取り組みをしていただいてもいいのではないかと、こう思います。というのは、あの瀬戸内海というのは、あれだけの島々がありますし、そこには人々も生活しておりますし、また歴史がいっぱいありますね。四国にしましても、瀬戸内海の本土側にしましても大変な歴史を持った歴史資産だと、こう思っております。そういうことを活用するという立場で私は頑張ってもらいたいなと、こう思っておりますが、その2点について、まず伺いたいと思います。

22： 山本みなと総局長

山本みなと総局長 クルーズの質問が出ることは予測してなかったんで、ちょっと驚いておるところでございますけれども、ありがとうございます。ことしは客船が目標としました100隻、どうもちょうど入るみたいで、私どもも客船誘致に努めてきた結果、こういう形になるという形で、喜んでおるところでございますけれども、ちょっと来年は日本の船4隻でございますけれども、日本船籍の船が。3隻が世界一周に出ますんで、ちょっと難しいかなというふうな思いも持っていますけれども、それにしましても客船誘致というのは非常に大事なことで思っております。

今ご指摘のございました瀬戸内クルーズという形のものは、これは経済同友会でもおっしゃってますので、我々も鋭意取り組んでおるわけでございますけれども、瀬戸内海クルーズを広く世界に発信する必要もあるという形で、当然神戸港を起点とした瀬戸内クルーズという形で、既に広島市とか、広島県、香川県、岡山県とも連携を進めてまして、そういったモデルクルーズといったものをつくって、今鋭意検討しております。こういった2泊、3泊ぐらいでクルーズができるという案をつくって、日本船社、外国船社も含めて売り込みたいと思っております。それに先駆けまして経済同友会が来年、どうも瀬戸内クルーズを試験的にやるようでございますので、私どももそれに大いに協力してまいりたいというふうに思っております。

先生、ご指摘のとおり、エーゲ海クルーズと比較しましても、瀬戸内というのは非常に世界遺産もあるというようなものでございますので、私どもとしましては、大いにPRし、そういったクルーズが実現できるように取り組んでまいりたいと思っております。また、ぜひともその節はご協力方よろしくお願ひした

いと思います。

以上です。

23： 岡口産業振興局参与

岡口産業振興局参与 大規模企業等に取り組んでいるのかと、発表できるものはあるかというご指摘でございますが、残念ですが、きょう改めて発表できるものはございませんが、もちろんのこと大規模企業の誘致も市長以下取り組んでおるところでございます。大規模という意味では、堺市等とは違いますが、せんだって発表いたしましたテクノ・ロジスティックパークの日本商業開発、10.9ヘクタールという大規模のロットの分譲が決定いたしました。これは、日本商業開発さんが土地をお買い上げいただき、建物を建てて、そこで物流企業をテナントとして入れて物流で使うというようなことございまして、物流の中でも大規模なものということで、波及効果も期待しておるところでございます。

お話にありましたとおり、やはり三重県の亀山工場から各都道府県を中心に大規模な工場につきまして、補助金等を使って誘致をされているというようなことが続いてきておりますが、先ほどお話ししました堺市以外にも兵庫県さんも尼崎でございますけども、松下電器産業の液晶パネルの工場、大規模な誘致を決められておりました。兵庫県さんは、以前から大規模な補助制度を持っておられまして、これは上限がないという、全国でも珍しい有数の制度となっております。私どもは確かに、私どもの制度は補助金ではなくて、そういう固定資産税等の減免ということになっておりますが、そういった兵庫県との役割分担を活用しながら、協調して取り組んでいきたいというふうに考えてございます。大阪府と堺市さんもそのような形で取り組まれたということでございますので、負けることなく今後とも大規模工場、大規模事業所の誘致に取り組みたいと考えてございます。

以上でございます。

24： 委員（北山順一）

委員（北山順一） まず、みなと総局の関係で、世界一周に日本船が出るんだと、こういう話ですが、神戸が起終点になっておるんでしょうか。例えば横浜から出て神戸へ立ち寄って向こうへ行ってる、また神戸に立ち寄って横浜へ行くとか、そういう形の神戸発着ではおもしろくないんでね、神戸がハブになっておいてもらいたいと、こういうふうに思うんですが、その点はどうなっておるのかなということをお伺いしておきたいと思えます。

それから、こちらの岡口さんの方の大規模工場、大阪の堺は そういう堺市自身は何も持っていないのに、大阪府との提携でできたということについては、私もそれはうまくいってよかったなと、こう思っておりますけれども、兵庫県が持つとうから神戸市はなくてもいいんだと、こう言うけれども、神戸市も持った方が私はいいように思いますよ。それは持たなくていいんだと言っておるのは何か特別な根拠があって言っておるのか、それともいやいや持ちたかったけど、持てなかったんだということなのか、そこあたりをちょっと詳しくお伺いしたいなと思っております。

もう一つ、ちょっと追加で聞いておきたい。これは地場産業の活性化ということについて、私は長田が

ら議会へ出してもらっております関係で、長田のケミカルシューズというのとの関係は非常に深いと、こう思っております。ケミカルシューズは、皆さんに 県や市からも随分支援を受けてやりながらも、ああいう状態で大変厳しい産業の1つなんです。数は年々減っております。年々減っておりますけれども、このグラフを見ておったら、生産高はそんなに減ってないじゃないかと言うかも知れませんが、あのままでは神戸の西の景気、いつまでたっても回復しないので、何か抜本的なね、解決策を考えてもらいたいなと、こう思っております。

それはどういうことかといいますと、一回神戸市と、それから学ですね、学者、大学、それからその業界との定期的な研究会を持ってもらって、ケミカルシューズのあり方はこのままでいいのかということについて、一回十分打ち合わせをして、研究をしてもらいたいと、こう思うんですが、その点もいかがでしょうか、お伺いします。

以上です。

25： 山本みなと総局長

山本みなと総局長 来年、日本船籍4隻のうち3隻が世界一周に出るということでございますけれども、私ども商船三井なり、郵船クルーズですね、そういった形で話を伺うわけでございますけれども、今クルーズ人口というのが先生ご承知のとおり、やはり団塊の世代の退職というようなこともございまして、非常に大きく伸びておるといって、そういった船会社も喜んでおるところでございますけれども、基本的にやはり人口規模の多い東京を外すというようなことはできませんので、できれば神戸、横浜ということで神戸を最初にしていただきたいんですけども、船籍との関係からやっぱり横浜、神戸という形で動くのではないかと思っております。我々としては神戸における滞在期間というのをできるだけ長くしてほしいというようなこともお願いしておりますし、また神戸へ来て、現在、ことしからそういったバス助成といったものもつくっておりますけど、酒蔵とか、あるいはいろんなところを、神戸市内を有馬も含めて見学できるバス助成といったものもしておりますので、そういった形の取り組みを通じて神戸での滞在期間をできるだけ長くするというような取り組みを行っております。そういったことをこれから鋭意取り組んでまいりたいと思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

26： 岡口産業振興局参与

岡口産業振興局参与 税の減免は本当は違うんちゃうんかというご指摘だったかと思いますが、少し経過も含めてご説明いたしますと、もともとこの固定資産税なり、都市計画税の減免の制度といいますのは、震災の後、早期復興のためということから、いわゆる当時、出だしました特区の中で、国税を減免していただけないかというふうな要望を強くいたしましたけど、残念ながらなりません。そういった中で、当時としては画期的だったと思っておりますが、こういったいわゆる不均一課税を全国でも珍しい形で導入したというふうな経過でございます。

もちろんその後、さまざまな形で企業誘致に向けて各府県・市が補助金を入れておりますが、例えば政令市の場合を少し詳しく見てみますと、その補助金も固定資産税また都市計画税の減免相当というふうな内容と、またそのような説明もしておられます。したがって、その支払い方も見てみますと、分割で結果、

毎年度、固・都税の減免というふうに相当するものというような制度になっておりますので、企業さんから見られましたら、いわゆる効果というのは、結果的には同じになるのかなというようなとらまえ方はしております。ただ、補助金を打つ方が、また固・都税の減免、どちらの方が企業にアピール度があるかというようなことも視点としてあろうかと思いますが、かなりこういった制度は全国的にももう普及してきておりますので、今私どもといたしましては、企業のいわゆる受けとめ方について、どちらがどっちということはないのかなと。中にはやはり今日でも軽減について、ああ、そういうことがあるのかという企業もありますので、効果が同じということから、無理をして補助金ということもないのかなというのが率直なところでございます。

ただ、中には一括して前倒しで補助金を出されているという都市もございます。これは確かに企業にとっては効果があると思うんですが、そうなりますと、その財源に見合う収入、財源について、やはり非常に困難が伴うというようなことで受けとめるところでございます。

27： 真田産業振興局次長

真田産業振興局次長 ケミカルシューズの復興に向けての 復興といいますが、活性化に向けての学経の先生と一度いろいろ研究してはどうかというご質問でございます。現実問題としまして、震災後ケミカルシューズが大打撃を受けたわけですけども、そのときにくつのまちながた復興プランというのを県立大学の先生あるいは一橋大学の先生も入っていただきまして、具体的な復興プランをつくってやってまいりました。また、先ほどもご答弁させていただいたんですけども、この中小企業活性化プログラム、これはもちろんケミカル産業も含めた神戸市内の中小企業をいかに活性化させるかというところでございまして、これにはもちろんその先生にも入っていただいて、その中の大きな要素として、ファッション都市・神戸の要素が入っておりまして、これはケミカルシューズも含めた生活産業全般も含めた、そういうことでございます。そういう形で何か今後の計画をつくる場合にはいろいろな専門家のご意見を聞きながら考えていっていただくわけですけども、ご指摘のように、いろんな場面で専門家の意見を聞いて検討していくことは必要だと思いますので、今後もそういう機会がありましたら、学経の先生も含めていろいろ検討させていただきたいと、このように考えております。

以上でございます。

28： 委員（北山順一）

委員（北山順一） それじゃあ神戸港の活性化、陸上部、ウォーターフロントの方の活性化についても一生懸命努力しておることはよくわかっておりますが、クルーズについては世界一周するような海外のああいう大きな大規模なクルーズについては、神戸からも出てるんだと言いますがけれども、神戸が発着になるようなやつもやっぱり考えてもらいたいということは要望しておきたいと思っております。頑張ってもらいたいし、瀬戸内のクルーズはできたら帆船でやってもらったらもっといいんじゃないかなと、こういうふうにも思っております。そういうことをお願いを申し上げておきたいと思っております。

それから、企業誘致について、いやこれだって十分いけるんだといって、岡口さん言っておりますけど、

ちょっとやせ我慢なところがあるんじゃないかなと、そういうふうな感じもして聞いておりました。けれども、実際に僕は頑張ってもらって、三重県の亀山モデルと言われたあの亀山のシャープの工場、それから堺のシャープの工場、尼崎の今回の松下の工場、こういう目が覚めるような工場、大規模工場を神戸に誘致していただいて、おお、やったというぐらいのね、成果を上げていただくように、これは要望しておきます。

それから、真田さんからご答弁いただきましたケミカルシューズだけのことを言うわけではないんですが、長田という立場から言うたらケミカルと、こうなるんです。だけでも中小企業の活性化のいろんな支えがあったから今日の状態で保っておると。だけど一層今度活性化に向けて頑張ろうということであれば、さらにあと一歩踏み出さなきゃいかんんじゃないかなと、こう思っておりますので、その点もよく頑張ってくださいますことを要望して終わります。